

# エンジニアパーク

# Engineer *Ring* Park



**紺野 寛 建設部門（都市及び地方計画）**

**勤務先：北海道建設部まちづくり局長**

コップの中に水が半分、それをどのように見るか？①まだ半分入っている②もう半分しかない。同じモノでも正反対の現象として捉える視点・発想が、そしてトータルバランス感覚がどれだけあるか技術屋には、求められるところ。

唐突であるが、私自身ここに投稿できるのも病気になったおかげ。病気に感謝といえば何故と怪訝に思うのは当然のこと…受検申込みはしたものの「仕事・つきあい…」と自分に言い訳して勉強せず最終的には試合放棄。懲りず確か4回目の申込みをしたのは単身赴任開始の時。転勤直後と言うこともあり仕事の後はこれまで同様お酒の日々と自分への言い訳。が、5月の連休明けに激しい通風となり医者より禁酒令。これは「神様が真剣に取り組める様にお酒飲めないようにしてあげる」と教示しているのかなと…その結果残り3ヶ月の猛勉強でゴール。病気に感謝！という訳。

話題代わり、これからの人口自然減は、都市の膨張型に対する「規制」から、収縮型に対応する「再編成」を都市施策で求められているのは明白。空洞化とシャッター街。昭和40年代に造成された大規模な市街地の老朽化と一群の高齢者。10年ほど前、旧建設省の研究会の一員として、コンパクトシティのあり方で高齢者ケア施設の中心部への集約化、子育て施設の併設やこのための優遇税制処置など論じたことがようやく日の目を見ようとしているがまだまだ難題山積み。発想を変えれば、ここに多くのビジネスチャンスがある。



次号は、下出育夫さん（建設部門）



**廣永 行亮 農業部門（農業土木）**

**勤務先：株式会社ズコーシャ 総合科学研究所**

私は愛知県岡崎市で生まれ、大学を卒業するまで地元で過ごし、大学では現在もうそう呼ばれない農学部農学科に籍を置きました。大学4年生になり周りでは就職活動が盛んな頃、恩師の「農学科で勉強する究極の目的は、農業生産を实践することだ。」の言葉に感銘を受け、勉強しなかったことは棚に上げ、農業者になることを夢見て北海道十勝にやってきました。十勝の幕別町と米国アイダホ州の畑作農家で約7年間農業研修生として働きましたが、もう少しで農業者になれるところで挫折し、現在は㈱ズコーシャで主に農業関係の調査を担当しています。当初の夢は今のところ叶っていませんが、研修生時代に得た経験と知り合った人達は私の貴重な財産です。

この原稿を書いているのは、衆議院選挙で民主党が圧勝し政権交代した直後です。歴史的な変革が起ころうとするなかで、農業政策がどのように転換していくのか不透明な部分はありますが、日本の食糧基地である北海道農業の果たす役割が重要なことは変わりません。農業土木技術者となった自分は、このような状況下でどのようなことを心掛ければ良いのでしょうか。食料自給率を向上させる、持続的に農業・農村を発展していく、と言う大きな課題について自分が何をすれば良いのか戸惑います。それでも、自分がそこで営農していたら何が役立つか、どうしたら生産性が向上するか、と考えながら日々の業務に係われれば少しヒントが見つかるかもしれません。いつかまた、自分自身で農業生産を实践することをたくらみながら。



次号は、山岸 裕さん（農業部門）